

# なんもく・山村ぐらし通信

## 協議会の活動を振り返る

(前回の続き)

平成22年12月に南牧山村ぐらし支援協議会」は発足し、あと少しで10年目です。前回に続いてその歩みを振り返り、活動を紹介したいと思

### 移住相談会

都内で開催された群馬県主催の移住相談会に、通算34回参加しました。南牧村ブースでの相談件数は、確認が取れただけでも110組143名。1回につき3組。1件当たり

の相談時間は内容が多岐にわたることが多く1〜2時間が多いので、件数としては健闘していると思います。参加を始めたころの相談会では、物件紹介の面が色濃く、相談内容にしっかり答え切れないように感じ

る機会の情報そろえてお話しできるようにになりました。これからはオンライン相談会にも対応していきたいと思

### 現地案内

相談会の来場者は、興味の度合いによって大きく二種類に分かれます。大雑把にしか移住を考えていないけど話を聞きに来た人、色々情報を持っていて、確認して移住に近づこうとする人です。いずれも相談に来て話を色々聞くうちに、やはり現地で感じて確かめたい方

### 交流会

平成25年度より、移住者との交流会を年に1回、開催してきました。毎回30人ほどが集まります。これまで7回開催しましたが、各回とも深く掘り下げた会話が飛び交い、賑やかでした。

### 問い合わせ

協議会ホームページを開設した頃から昨年度まで、問い合わせも様変わりしました。昨年度までの合計は電話が500件、メールが466件、来村は420件です。最初の頃は電話での問い合わせが多かったのですが、最近はメールによる問い合わせが電話の2倍近くに

### 古民具及び古民家

様々な事情から、空き家を解体する方も見られるようになりました。解体前にお願



協議会を立ち上げた頃に参加した移住相談会の様子

まだ具体化できませんが、古民家のリノベーションなども計画

ご挨拶が遅れましたが、新年明けましておめでとうございます。昨年は会員並びに村民の皆様、村当局、県の関連部署にはお世話になりました。当協議会も新型コロナウイルスの影響により、大幅に活動の制限を受けました。しかし、地方移住には追い風の面もありますので、出来ることを少しずつ進めていければと思

2021(令和3)年2月発行 通巻第35号版(冬季号)

発行責任者・発行元：南牧山村ぐらし支援協議会  
問合せ：南牧村役場 村づくり・雇用推進課 協議会事務局  
電話：0274-87-2011(代)  
紙面編集：松林・高柳



協議会QRコード

協議会HP <https://nanmoku.org/>  
活動内容や各種情報を随時更新中!

【R2年度10~12月 空き家問合せ件数】  
電話：13件  
(10月 4件)  
(11月 4件)  
(12月 5件)

メール・手紙等：26件  
(10月 14件)  
(11月 9件)  
(12月 3件)

現地物件見学：11件  
(10月 2件)  
(11月 5件)  
(12月 4件)

【協議会ウェブサイト 訪問・閲覧状況報告】  
10/23-1/22 (約90日)

ページ閲覧数 123,393  
サイト訪問数 5,847  
サイト訪問者数 3,859  
平均ページ閲覧数 1 訪問当たり21ページ

## タイムマシンなんもく号

昭和初期の馬場(競馬場)

今は昔、昭和一桁代の頃と思われる馬場(競馬場)の写真です。小沢地区の杉の茂った山の中にありましたが、今は形跡もなく、往時を知る人もない光景です。こうした平らで広い土地はこの村では大変貴重ですが、それを馬場という賭け事をする場所に使用したことも驚きです。この馬場は一周回るコースがある。周

しくも楽しい時代だったように思います。現代からは遠いですが、連続と続く歴史の延長線上にその時代があり、先人が踏んだ大地に私があります。何思うと、感慨深いものがあります。何十年、何百年前に作られて今も村内の至る所にある石垣や庚申塔からも、それを実感できます。

日本中で人口減少が続いています。南牧村の人口も令和2年12月で1717人となりました。人口が減少すれば生産力や活力が落ちるのは否めませんが、人口も経済も右肩上がりの時代とは違う生き方や楽しみを見出し

馬は現在では馴染みのない動物ですが、ご年配の方の話では、薪など重たい荷物の運搬に使っていたそうです。馬がいれば蹄鉄屋があり、鍛冶職人がカンカンと鉄を叩くリズムが聞こえていた。馬以外にも牛や山羊などがいて、家畜の臭いと鳴き声が生活の中にあつたことが想像されます。

当時の馬場は専用の競走馬ではなく、自分が飼っている馬を訓練して走らせていたそうです。娯楽が限られた時代の細やかな娯楽という見方もありますが、大勢の人が賑やかな生活音とともに暮らして、八木節があり、神楽があり、地区の祭りと、忙



周回コースがあった馬場。旗が幾つも立ち、大勢が集まり賑やかだった。

# 空き家の件数は約600戸!

## 村内全域空き家分布調査

村内全域空き家分布調査は現地調査とデータ入力もほぼ終わり、今は確認・分析作業を進めている最中です。新型コロナウイルス感染症の影響もあり作業は遅れていますが、現時点では空き家の戸数は約600戸。約10年前に行った調査では空き家は368戸。その当時とは調査方法が違うのでそのまま比較できませんが、空き家の数が増えている事はわかります。

ちなみに今回の調査と直接関係は無いのですが、前回の調査開始時の国勢調査の村の人口を調べて見ると2423人、昨年の12月末時点では1717人、役場の玄関先に掲示されている人口)でした。その差約706人。決して人口減

無いのですが、その差を見てみると想像に難くないと思います。ところで、南牧村の人口推移も気になったので少し調べてみました。国政調査の人口推移を見ると昭和30年(1955年)時点です昭に南牧村では人口減少が始まっていたようです。日本全体では、平成27年(2015年)には人口減少が始まったようですから、60年も早かったことになりました。

昔、南牧村ではコンニャク栽培で潤っていたという話をよく聞きます。しかし、昭和30年代に群馬県でコンニャクの改良品種が生まれたことにより山間地でしか育たなかったコンニャクが平地でも栽培

培できるようになったようです。そのため、他の産地に対抗できなかったことが多少なりとも影響しているのかもしれない。もちろん、これだけの理由ではなく戦後の生活様式や経済構造の変化など様々な要因があると思われます。これから村の人口減少を抑えることは、日本全体で人口が減っていることを考えれば難しいことなのかもしれません。しかし、何もしなければ人口減少はさらに加速して行くことでしょう。どれだけ効果があるかは未知数ですが、その対策の一つとして空き家の活用が活かせればと考えます。

この調査の分析結果については、今後の山村ぐらし通信において皆様にご報告できたらと思います。今しばらくお待ちください。

志賀正寄稿

### はじめての

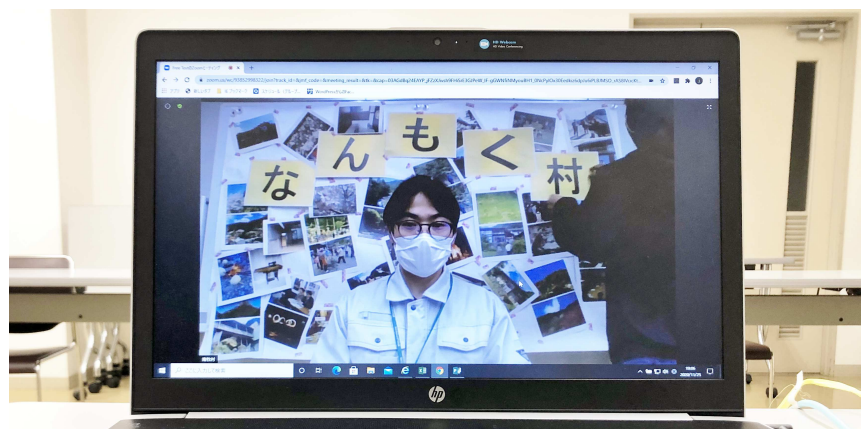
## オンライン移住相談会

11月28日(土)に、ざんま7市町村とつながるオンライン移住相談会「えい!こんな雄大な自然が首都圏に?」と題された西毛地区の市町村が合同で開催する移住相談会に参加しました。これまでの相談会では意気揚々と東京の会場へ乗り込むわけですが、今回は少し様子が違います。訳あって一同に会することがはばかられる中で、最近よく耳にするようになってきたオンライン飲み会:ではなく、オンライン開催での移住相談会です。PC一台を準備し、役場の一室を貸し切った会場でひっそりと

開始、まずはセミナー方式で各市町村が3分ずつPRと先輩移住者の体験談、その後は個別の相談に移るといった、一般的な相談会と流れるは一緒です。個別の相談だけでなく、順番待ちの相談者と複数の方の市町村のあいだで質問が飛び交う場面もあり、参加者は少ないものの全体を通してオンライン相談の雰囲気を確かむことが出来ました。

オンラインでの開催は、実際に対面しての応対と違い、中には顔を映さない場合もあるなど参加者の移住への温度が捉えにくいことや、飛込での参加があまり見込めないといった問題点があるものの、インターネット環境があれば場所を選ばず、自宅等から気軽に参加できるというメリットもあり、移住相談の最初の一步として今後も積極的に開催されると思います。その最初の一步で南牧村に興味を持ってもらうためには、移住希望者にとって南牧村の魅力とは何なのか?また、それを伝えるためにはどんな方法が良いかを考え、情報として発信していく事が重要だと思います。協議会として今回の経験を活かし、今後の相談会に向けて着実に活動していければと思います。

事務局寄稿



オンラインを使用した様子

## 草木萌動

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。今年の夏で丸6年になるなんもく村のちよっとしたc a f eの加藤有希です。大日向にある古民家を 草木萌動(そうもくめばえいずる)と名づけ、村の発信拠点づくりの一環としてオープンしました。草木萌動とは、3月初め頃の暦を表す言葉で、土の中から小さな芽がそっと、ちよっとずつ動きだす。「そんな自然になり、自然農園まほらまの五十嵐さんと一緒にスター

トしました。おかげさまで続けられていることに感謝し、そしてこれからも永く続けていけるように、ちよっとずつちよっとずつっかりとやって参りたいと思います。この5年の間に、私自身の環境の変化がありました。息子が生まれ、昨年秋よりさくら保育園にお世話になりながら仕事をしています。お客様や友人に保育園に預けていると話す「南牧村に保育園あるんですね!」と返ってくる時があります。まずは保育園が村にあることを有り難く感じます。そしてとても良くみてくださり、またおもだちもたくさん息子と遊んでくれているようで、毎日楽しそうに通わせていただいています。妊娠出産で色々スローペースであったり、またコロナの影響でイベント開催なども迷う企画もありましたが、コロナがきっかけとなり、五十嵐さんとの月いち宅配セット事業も昨年よりスタートしました。五十嵐さんの美味しいお野菜とちよっとしたカフェのお菓子とその月によって村の方の手作りのお品を加えて、全国発送しています。そして、今年も五十嵐さんの柚子果汁の瓶詰を作るとき副産物の柚子の皮を使った新メニューを作る予定です!そんなワクワクを抱きながら、この冬の寒



イベントでにぎわう店内

最近、息子の誕生日に木工品を購入しました。ふと思いつき、私の父の故郷である青森県大鰐温泉の木工所に製作していただきました。子供の頃訪れていた場所でした。大人になってから、木工所に併設されていた喫茶店を訪れた時、津軽弁で「寒いから中入って、ストーブあたって」とあたたかく迎えてくれたことがありました。そんなあたたかさを大切にカフェをやりたいんだと初心を思いだした最近です。南牧村の方々の迎えてくださるあたたかさが大好きで群馬に来た私です。そのあたたかさと同じように伝えていきたいように、また訪れたいと思っただけのように努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

加藤有希寄稿